

第三者評価結果報告書

①第三者評価機関名

株式会社 学研データサービス

②施設・事業所情報

名称：	MIWAあかね台光の子保育園	種別：	認可保育園
代表者氏名：	園長 松浦 美帆	定員（利用人数）：	90（95）名
所在地：	227-0066 神奈川県横浜市青葉区あかね台2-18-1		
TEL：	045-982-0025	ホームページ：	https://www.miwanokai.jp/akanedaihikarinoko/
【施設・事業所の概要】			
開設年月日	2004年4月1日		
経営法人・設置主体（法人名等）：	社会福祉法人 みわの会		
職員数	常勤職員： 23名	非常勤職員：	20名
専門職員	保育士 28名	栄養士	3名
	看護師 1名	調理員	3名
	事務員 2名	用務員	1名
	保育補助 5名		
施設・設備の概要	居室数 保育室7室、調理室、調理休憩室、事務室、休憩室、園長室、事務長室	設備等	園庭、乳児テラス、駐車場

③理念・基本方針

我が子をゆだねたい保育

- ・温かい心（ホスピタリティマインド）を持って、受け止め、子どもを愛します。
- ・子どもの個性、独自性を大切にします。
- ・保護者、地域社会と共に歩みます。
- ・家庭的な保育園を目指します。

みわの会が大切にしている「ホスピタリティ・マインド」は、お子さんはもちろんのこと、保護者の皆様、同僚、周りにいるすべての人たちに対しての基本姿勢です。一人ひとりの子どもの発達を尊重し、支援する保育を実践しようとするとき、保護者の皆様に必要な支援ができるようにと願うとき、地域社会と共に歩もうとするとき、「ホスピタリティ・マインド」は、やさしく人と人との絆を強くしてくれると信じています。

保育園は、乳幼児の養護と教育を担う機関です。乳児のときから日々の体験を通しておこなわれる子ども同士の関わりや対話、協力共同の取り組み、その土台となる仲間づくり、集団づくりの実践こそが「学びの質」を高めると共に「人と人とのつながり」を深め、後々学習や学力にも影響を及ぼすとされています。「乳幼児教育」とは正にこのことを指しているものです。みわの会では、この考えに基づき「ホスピタリティ・マインド」をもって、子どもの意欲が育つ人為的環境づくりを常に模索しています。

子どもは「未来からの預かりもの」、社会のみんなで愛しむべき宝物です。保護者の皆様、保育園、地域、行政と一体になり、21世紀を支える日本人財を共に育て合うのだという意識を持ち、子どもたちも親も保育者も心豊かになる保育を心がけてまいります。

④施設・事業所の特徴的な取組

子ども一人ひとりに丁寧な寄り添い、居心地の良い園生活が送れるように支援しています。明るく広々とした園内では、各クラスとも年齢に合ったおもちゃや絵本が用意され、個々に好きな遊びを選んで遊びこめるようにコーナーが設定されています。子どもたちは一人で遊びに集中したり、静かに絵本を読んだり、友達と遊びを展開したりして、伸び伸びと毎日を過ごしています。また、保育室だけでなく園内のホールや廊下も子どもたちの遊び場として活用され、子どもの活動によってはホールは舞台としても活用でき、またその日の状況によって気持ちをクールダウンできるような空間も用意されています。このように、随所に工夫や配慮が見られる環境により、子どもたちにとって、家庭的で居心地の良い園生活が保障されています。

園は高台にあり、周囲は自然に恵まれています。子どもたちはさまざまな散歩コースを選んで散歩に出かけ、四季折々の植物や生き物に触れ自然に親しんでいます。また、食育活動や子どもへのSDGs教育、外部講師による美術あそび、体操、わらべうたなど多彩な活動を行って子どもたちの体験をより豊かなものにしていきます。今年度から始まった3～5歳児の異年齢保育では、子どもたちの交流を通して互いに思いやりをもつ心を育てています。

園では、子どもを一人の保育者の視点だけでなく、複数の保育者の視点により多面的にとらえていくことを大切にしています。園長はじめ主任、看護師、栄養士、調理員などは各クラスを回り、子ども一人ひとりの理解に努めています。そのため日々の振り返りを行う際には、それぞれの専門的な視点から多様な意見が交わされ、子どもをより深く理解する上での新たな気づきも得られています。このような丁寧な振り返りを重ねていくことで、より個々に寄り添った保育の実践、園全体の保育の質の向上につながっています。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2023年6月5日（契約日）～ 2024年2月16日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	4回（2018年度）

⑥総評

◇特長や今後期待される点

◆職員の連携により保育環境が整備され、多様な体験活動を行っています

保育理念「我が子をゆだねたい保育」の実現に向けて、園長は日ごろから職員によるグループワークの機会を設け、園の目指す保育がどうあるべきかを子どもの視点に立って考えられるよう導き、職員全体の質向上を図っています。これにより保育士、看護師、栄養士らが職種を越えて連携し、子どもたちが好きな遊びを選んで遊びこめるような保育環境をつくり、日々の保育活動、食育活動、健康教育を充実させています。さらに、ごみの分別や紙の削減といったSDGsの取り組み、外部講師による美術遊びや体操など多様な活動も取り入れ、子どもの興味、関心を広げています。これらの体験活動が意欲を引き出し主体性の芽生えにもつながっています。

◆子ども、保護者、地域の人々に寄り添い、家庭的な保育園を実現しています

園はホスピタリティ・マインド(温かい心)で子ども一人ひとりを受け止め、個性を尊重した保育を行っています。また、保護者には園の方針を動画配信や懇談会などで伝え、日々の子どもの様子を連絡帳や送迎時の会話、アプリ配信、掲示物などで丁寧に共有しています。地域には子育て支援活動として園庭開放、育児相談、お話会、親子ワークショップ、絵本の貸し出しなどさまざまな機会を提供し、地域の親子を温かく受け入れています。さらに、地域ボランティアなどの人々との交流もあります。このように、園のホスピタリティ・マインド(温かい心)は保護者や地域の人々にも向けられており、子どもを中心に据えた家庭的な保育園を実現しています。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

当園は今年度20周年を迎え、第三者評価受審も5回目となりました。前回受審時から評価項目にも変化が見られ、項目の多さや、より細かな設問になっていると感じました。半年以上掛け、各項目を実践と照らし合せながら、立ち止まり、整理することが出来た機会となりました。日頃から取り組んではいるが、深める事が十分でない・不足と感じる項目や、取り組みの根拠となる会議の持ち方や記録の残し方など今後取り組むべき課題が見えています。職員と共にグループワーク等の学び合いを通して、回を重ねるごとに得る事も多くなっていると感じる一方、実践との繋がりにおいては今後も学び続ける必要があります。ご家族の皆様にはお忙しい中アンケートへご回答頂き、ご意見や沢山の温かなコメントをお寄せいただきました。心よりお礼申し上げます。真摯に受け止めさせて頂き、課題においては職員一同、善処して参ります。今後も保育園に求められる役割や、こども達やご家族にとって変わらずに大切に考える事と、よりよく変化していく事を見極めていきたいと思ひます。引き続き、園づくりにお力を頂きたいと思ひます。評価調査者の皆様には、当園の為に多くの時間を注いでくださいましたこと、心を寄せてくださいましたこと、改めてお礼申し上げます。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり